

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 76 人

② 算数 76 人

5 留意事項

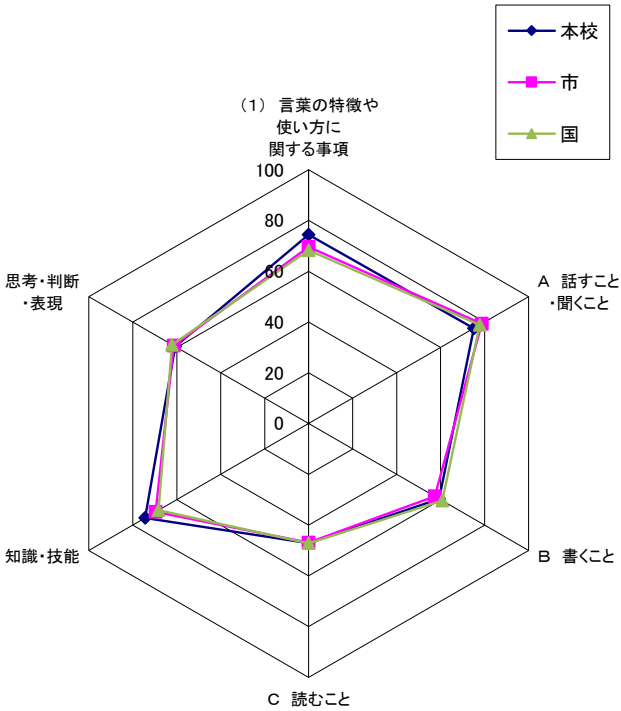
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	74.4	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	75.1	78.7	77.8
	B 書くこと	59.3	57.3	60.7
	C 読むこと	47.1	46.9	47.2
観点	知識・技能	74.4	69.6	68.3
	思考・判断・表現	60.7	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

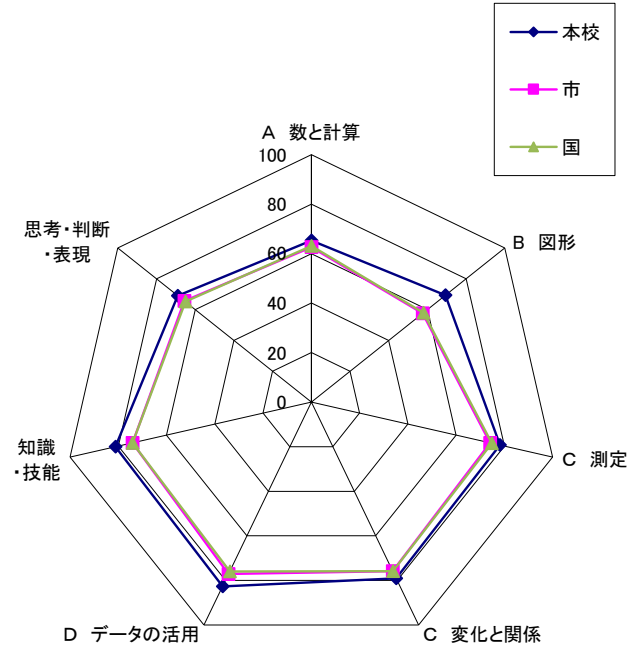
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率が74.4%と、市の平均正答率より4.8ポイント上回っている。 ○文章の意味に合わせて漢字を適切に使うことを苦手とする傾向がある。 ●文と文の意味の繋がりを理解しながら、修飾と被修飾との関係を捉え、文の構成を理解することが不十分である。	○国語辞典を使って、慣用句を調べる活動を取り入れたら、日常生活で用いるようにしたりする。 ・漢字の学習では、新出漢字だけでなく小学校で学習する常用漢字を復習する機会をもつようにする。 ・既習の漢字や修飾語や指示語を使った短文作りをするなど、日常生活の中で使えるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率が75.1%と、市の平均正答率より3.6ポイント下回っている。 ○話し手の意図を捉えながら資料を活用して自分の考えをまとめることができる。 ●スピーチをするために必要な資料を用いた目的を理解することに苦手がある。	・分かりやすく伝えるために、相手に話の意図が正しく伝わるかどうかという観点で言葉を考えさせたり、言い換えさせたりするなどして、友達と相互に吟味し合う活動を取り入れる。 ・各教科や学級活動等を通して、グループで話し合ったことをもとに、考えの共通点や相違点を整理するために、資料やメモを活用した話し合いの場を意図的に設定していく。
B 書くこと	平均正答率が59.3%と、市の平均正答率より2.0ポイント上回っている。 ○自分の主張が伝わるように、文章の構成を考えて書くことについての理解はできている。 ●目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表すことが苦手である。	・自分の考えを明確にして文章の構成を意識して書く場面を意図的に設定する。 ・分かりやすい文章を書くために、相手に伝わるか考えたり、再度検討したり、友達と相互に吟味し合ったりするなどの活動を取り入れる。
C 読むこと	平均正答率が47.1%と、市の平均正答率より0.2ポイント上回っている。 ○文章全体の内容を捉えて、内容の中心を捉えることができる。 ●目的に応じて文章と図表を結び付けて必要な情報を見付けながら読み、条件に合うように自分の考えをまとめる力が不十分である。	・説明的文章を読む機会を多く設け、要約させたり、複数の情報を結び付けて考えたりする場を設定する。 ・目的に合わせて書かれている文章に数多く触れさせ、書き手の意図を理解しながら読み取る練習をする。 ・日常の読書活動を活用し、語句に着目して読んだり、感想の交流をさせたりする。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.3	62.6	63.1
	B 図形	69.3	57.5	57.9
	C 測定	78.2	74.1	74.8
	C 変化と関係	79.1	75.8	75.9
	D データの活用	82.7	77.1	76.0
観点	知識・技能	81.2	74.1	74.1
	思考・判断・表現	69.0	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率が65.3%と、市の平均正答率より2.7ポイント上回っている。 ○示された除法の結果を、日常生活の場面に合わせて考えることができています。 ●基準量が増えたときの比較量が示された時の理由を考えることに課題がある。	・必要な情報を選び立式できるようにするために、様々な場面設定の問題に取り組ませるとともに、個の力に応じて習熟度別学習を取り入れる。 ・図や数直線を使って視覚的にも二つの数量の関係に着目して考えられるよう、板書やワークシートを工夫していく。
B 図形	平均正答率が69.3%で市の平均正答率より11.8ポイント上回っている。 ○複数の図形を組み合わせた図形の面積について比べて考えることができています。 ●図形の性質や構成要素に着目して、面積の求め方を説明することを苦手とする傾向がある。	・図形の構成要素である辺の長さや角の大きさなどに着目して図形を捉えたり、図形の構成についての見方を働かせ、合成や分解などして面積を求めたりできるように、具体物を用いる活動を増やす。 ・自分の考えを根拠を明確にして筋道立てて説明したりする機会を増やす。
C 測定	平均正答率が78.2%で、市の平均正答率より4.1ポイント上回っている。 ○条件に合う時刻を求めることができた。 ●求め方や答えを判断する理由を、式や言葉を用いて説明することを苦手とする児童が見られた。	・生活体験に結び付けながら、単位量当たりの大きさを測定する問題を積極的に取り入れる。 ・数量の関係を見出して考察し、数学的に表現することができるようにする指導の充実を図る。
C 変化と関係	平均正答率が79.1%で、市の平均正答率より3.3ポイント上回っている。 ○速さと道のりの関係を理解し、時間を求める式に表すことができた。 ●場面の状況から速さの求め方や商の意味について理解し、判断することに課題がある。	・多くの情報の中から必要な数量を見出すことができるようにするために、既習事項である割り算の性質や単位量当たりの大きさをもとにして考える機会を増やし、繰り返し練習問題に取り組ませることで習熟をはかる。
D データの活用	平均正答率が82.7%で、市の平均正答率より5.6ポイント上回っている。 ○棒グラフを読み取ったり、項目間の関係を読み取ることができている。 ●複数のデータから、示された特徴をもった項目を選ぶことができて、その割合について言葉や数を用いて答えることを苦手としている。	・資料を活用して情報を整理することができるよう、棒グラフや帯グラフ等複数のデータを比較・活用したり、統計的に解決可能な場を設定したりする。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」については92.0%と県の86.9%, 全国84.1%より上回り, いじめは許されないということへの意識が高い。

○「学校の授業時間以外に, 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」に関する質問においては, 1時間以上2時間以下が48.0%であるなど, 県の割合より高い傾向が見られた。「2時間以上, 3時間より少ない」「3時間以上」と回答した児童の割合も県や全国より高い。今後も, 継続的に指導を続けるとともに, 家庭学習の啓蒙を図りたい。

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」の項目では, 肯定割合が全国より高い。地域の活動が盛んであり, 児童と地域の繋がりが深いことが伺える。また, 総合的な学習の時間や道徳の時間を活用して, 地域の偉人「荒井退造」の功績について触れていることも地域に対する意識の高さに繋がっていると思われる。今後も, 郷土愛を高めるため, 継続して指導を行っていく。

○「5年生までに受けた授業で, コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」の項目では, 「ほぼ毎日」と回答した児童が49.3%と県や全国の肯定割合よりかなり高く, また, 「学習の中でコンピュータなどのICT機器をつかうのは勉強の役に立つとおもいますか。」の項目への肯定割合も96.0%と高い。今後も引き続き, ICTを活用した授業の展開と指導の充実を図っていきたい。

●「5年生までに受けた授業で, 自分の考えを発表する機会では, 自分の考えがうまく伝わるよう, 資料や文章, 話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」の項目は, 肯定割合が60.0%ではあるが県や全国の肯定割合より低かった。教材研究を行い, 「協働的な学び」を充実させていきたい。

●「新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中, 勉強について不安を感じましたか。」についての肯定割合が72.0%で, 県の60.8%, 全国の55.2%より高いことから, 家庭で不安や孤独を感じていたと思われる。学校での「主体的・対話的な学び」の実践を推進し, コミュニケーション能力の育成を図るようにしていきたい。

宇都宮市立清原南小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で, 重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
国語における基本的な知識及び技能の習得	懇談資料や学年だよりを活用して, 家庭への啓発を図るとともに, 自主学習やドリルの有効活用をしている。 文章から読み取ったことをもとにして学び合う時間を取り入れ, 互いの考えを伝え合う時間を設定している。	書くこと, 言葉の特徴や使い方に関する事項に関しては, それぞれ市の平均を上回っている。「話すこと」「聞くこと」「読むこと」「文章の読み取り」は市の平均よりも低い。
算数における単元や子どもの実態に合わせた少人数指導や習熟別学習の充実	個に応じた支援と集団の特性を効果的に生かす学習形態を工夫し, 計画的, 継続的に指導に当たっている。	算数はどの領域・観点においても全国平均を上回っている。算数の学習への意欲が高いことや, 習熟度別や少人数による指導の成果と言える。

★学校全体で, 今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から, 国語の読むことについての平均が低いことが分かる。また, 算数の数と計算, 図形についての思考・判断力が定着していないことが分かった。	・定着を図る学習の充実 ・授業の中で立式の意味や図形を捉えやすくするための板書の工夫 ・考えや根拠を明確にして伝え合う機会の設定	・学年共通で復習の機会を設けると同時に, 家庭学習への取り組み方や復習方法を提示してするなど, 家庭への啓発を行っていく。 ・図形においては, 具体物を操作したり, ICTを活用したりして, 複数の図形を組み合わせた図形の構成にも着目できるように構造的な板書計画や個別支援の工夫を充実させる。